本校の特色ある学校行事（生徒会を中心とする）の紹介

金沢大学教育学部付属高等学校生徒指導部

米谷　数子

【要　旨】　それぞれの地域において，高校生はたしかな足どりで現代社会の中に様々の係わりを持って生きている。情報化時代の現代では，均しく共通する点もあるが，その中に，自然と，その土地に根ざした特色ある校風が育くまれている。概して，国立大学附属高校は，世間から，受験校という一面的な見方で評価され，受験勉強以外のことには極めて冷淡な生徒達の集団であるかのような誤解を受けていることが多い。ごく近い地域の人ですら、ある種の偏見を持っていることがわかる。例えば，金沢大学の学生で，教育実習をした後の感想に，「クラブ活動その他，教科外活動が意外に活発で，従来から想像していた附高生のイメージとかなり異なって居た」と述べる人が多いことからも知られる。全国附属高等学校教育研究大会で，既に多くの学校の多彩な学校行事の紹介がなされて来たが，本校でもまた，特色あるいくつかの行事が繰り拡げられて来た。昭和22年に誕生した新しい学校であるが，創立以来既に33年を経過し自ら北陸の地金沢らしい伝統的な行事も育くまれて来た。そして生徒達は青春の血潮のたぎる元気一杯の若者たちであり，新しい息吹きを盛り込んで，更に斬新な企画もされ，充実した生徒会行事に，多くの生徒は楽しい思い出を作って巣立って行く。一方、共通一次試験の実施があり，大学入試制度も少しずつ変って行くが，全校生徒が各自の問題として大学入試に直面することを余儀なくされていることも事実である。一般の生徒の要望に応じて，次第にふくらもうとしている生徒会行事も，それを企画・執行する立場の生徒の負担も配慮し，教科の学習の妨げにならぬよう，時には指導しなければならないようである。そうした行事を通して，生徒は勿論生きた勉強をするのではあるが，目まぐるしい行事に，落着きのない感じで，自己を見失うような生徒を出してはいけないことは言うまでもない。そうした意味で，伝統的な行事もまた，時代の動きにつれ変遷して行かねばならないであろうと思われる。

現代風潮としては，「ゆとりの教育」が提唱され，一般的には盛沢山な教科内容の見直しがなされ，必修単位数の削減や自由度を持った教科課程の編成に移行しようとする過渡期でもある。小・中学校では既にその実験的学習がなされているところも多いようである。体験を持たせることによって，本当の意味の生きた勉強が出来ることは事実であり，教科書や他の書物だけからは得難い知識が身についたものになることは論をまたない。併し，戦後，アメリカの教育法にならって大改革が行われたわが国であり，その日本人の順応性と優秀な知恵によって次第に，日本人の為の教育のあり方に落ち着きつつあるように思うが，その本場のアメリカで今は，生徒達を教室に戻そう，じっくりと本を読み，書くことが出来，計算力のある子供達を作ろうではないかという百八十度転換の教育態勢が多くの州で実施のきざしを見せているという情報を得た。われわれも，今迄のあり方に，今一度，原点に立ち直って反省して見ても良いのではなかろうか。

各種の行事を通し，学校教育の中で得た体験が，将来の実社会に生かされるであろうということは否定しないが，人類の文化を創造発展させる原動力となる若者である高校生達は，その

旺盛な吸収力と柔軟な頭を鍛え磨く大切な時期に，徒らに体験の量を求め，忙殺させてはいけないのではなかろうか。しっかりと腰を据え，勉学に，思索に耽る重要な時期なのである。真の人類の幸福の為に寄与できる人材の養成にわれわれは今，どのように対処すべきでしょうか。

【年間行事の概要】　　【要　旨】

33年間の学校の歴史の中において，各種の行事が消長を見せ，現在に至っているが，特に最近数年間の行事表を整理して，本校での年間行事と見られるものを（表１）のようにまとめた。これは昭和53年度と54年度の行事表を（表２），（表３）のように整理して，それに今年度９月現在までにほぼ定着したと思える行事を，月別に，主催別に並べたものである。ただし，毎年度の行事の原案は，毎年度初めに全教官の希望を容れ承認を得て係りが立案し，教官会議によってその予定案が審議され，きめられるのであって，以下の表が固定したものではないことは勿論である。むしろ，要旨にも述べた意味で，反省期であり，現在，わが校で，昨年に引き続き行事検討委員会が持たれて居ることでもあるのでここに拡く紹介して，検討の材料に提するものである。大方の御意見を賜われば幸甚である。

（表１）　　年　間　学　校　行　事　表

月	学　校・学年主催	生 徒 会・クラブ主催	石 川 県・金沢市その他
４月	始業式・入学式 新入生への学校生活紹介 総合健康診断・学年遠足	クラブ紹介・ 生徒会役員候補立合演説 役員選挙・生徒会	
５月	育鳳会（Ｐ.Ｔ.Ａ）総合 中間考査 教育実習（体育科）	クラブ発足 クラブ役員選出運営	
６月	県総体による特別時間割(4日間) 教育実習（教育学部・他大学）	総体参加（クラブ単位） 運 動 会	県給合体育大会（県高体連）
７月	１学期末考査　父母の会 大掃除・終業式 修学旅行(2年) 現地学習(1年)	歌の祭典（学級別合唱コンクー 火の祭典　　ル他） 演劇部発表・野球試合参加	文化教室（観劇） 県高校野球連 石川県高校演劇発表会
８月	（修学旅行） 同 窓 会 ３年補習授業	参禅茶会(大乗寺)男バレー予選 サッカー交歓試会(富山中部) 各部夏季特別強化練習	全国高校総合文化祭 県高体連 石川県学校茶道連絡協議会 両校サッカーＯ.Ｂ.会
９月	全校遠足・合同授業 北信越教育研究協議会	生徒会後期役員選出 生徒会総会	
10月	教育実習（法文・理学部） 中間考査	スポーツ大会 野点て茶会	
11月	開校記念武 合同授業	開校記念祭 （弁論大会・演劇他）	
12月	２学期末テスト		
１月	教育実習（養護） １・２年基礎学力テスト	スキー部（県体参加）	冬期スポーツ大会
２月	付中生内部選考 ３年特別授業	卒業生送別予餞会） クラブの送別会	
３月	入学者選考・卒業式 １年現地学習（大和）		

本校として特色ある学校行事のうちに「合同授業」が年間，５回は入るのであるが，講師の都合によって，その時期が変動するので，上の表には一部しかのせなかった。この紹介は今はおき，特に生徒会主催の行事をとりあげて紹介することにする。

学　校　行　事

（表２）　——昭和53年度・昭和54年度——　（昭和55年９月）

年度	昭和53年度			年度	昭和54年度		
主催／月日	学校・学年主催	生徒会主催	その他	主催／月日	学校・学年主催	生徒会主催	その他
4．8	始業式，入学式			4．9	始業式（新任式）	選挙管理委員選出	
9		生徒会・部紹介		10	入学式	クラブ紹介	
10		選挙管理委員選出		11			
17		執行部立合演説会		12	検　尿		
18	学年別遠足	役員選挙		14		生徒会立合演説	
				19	学年遠足		
				24	育鳳会総会	生徒会総会	
5．2	内科検診		（高文連主催）	5．4	耳鼻科検診		
4	〃		文化教室	8	合同授業		
6			（観劇）	9	眼科検診		
8	耳鼻科検診		観光会館	10	内科検診		
10	眼科検診			12	歯科検診		
13	歯科検診			15			
17				〜19	中間考査		
〜20	中間考査			21	教育実習開始		
22	教育実習開始			23	合同授業（体育）		
27	（体育）		全付連総会	24	心電図検査		
28			（全国附属学校）	26			全付連総会
31	開学記念日（休日）			27			
				31	開学記念日		
6．2			高校総体	6．1			高校総体
〜5			（石川県）	〜4		運動会	
8		運動会		12			
19	教育学部・他大学生教育実習開始			16	体育科実習終了		
				18	教育実習		
				〜30	（教育・他大学）		
7．5				7．5	期末考査		
〜10	１学期末考査			〜10			
11	合同授業			12			文化教室（シェークスピア「から騒ぎ」）
14	（浅利慶太氏）			16		スポーツ大会	
15		スポーツ大会		18	父母の会		
18		寮歌大会		19			
19	合同授業	火の祭典（ファイヤーストーム）	県高校演劇発表	20	終業式		
20	（吉田圭蔵氏）		野球予選	23	１年現地学習		
21				24	（立山）		県高校演劇発表
23	白山登山（1年）			29	２年修学旅行		野球予選
24					（九州）		
26	修学旅行（2年）						
〜31	（東北）						
8．1	（朝，帰沢）			8．4			男バレー予選
9			男バレー	15			
10		参禅茶会（大乗寺）	団体予選	19		交歓試合	同窓会総会
15							参禅茶会
21			同窓会総会	21			
〜30	３年補習授業			〜30	３年補習授業		

（表２のつづき）

（53　年　度）

月日＼主催	学　校・学年主催	生徒会主催	その他
9．1	二学期始業式		
11		後期役員選出	
21		生徒会総会	北信越附属学校協議会
22		全校遠足	
26	教育実習オリエンテーション		
27	（理，法文学部）		
10．2	法文，理学部		
3	教育実習開始	野点て茶会（忘機園）	
14	実習終了式		
18	中間考査		
～	合同授業		
21	（真継伸彦氏）		
25			
26		～スポーツ大会	全国附属学校研究大会
27			
28			
11．3	開校記念祭式典	開校記念祭	
4		弁論大会	
5	（３日の代休）	音楽会	
		模○店（食堂）	
		レコードショップ	
15	合同授業（上山春平氏）	お化屋敷，茶席	
24	合同授業（岩崎憲太郎氏）		
12．11	期末考査		
～			
15			
1．8	始業式		
16	養護教生実習開始		
17	1・2年基礎学力テスト		
2．7		卒業生送別予選会（勧進帳）	
8			
9			
10	付中よりの内部選考		PM2：00～ディーン会議
21			
3．5	期末考査		
～			
9			
10	卒業式		
13	合格予定者面接等		
20	合格者発表予備入学		
22	１年生現地見学		
～			
24	終業式		

（54　年　度）

月日＼主催	学　校・学年主催	生徒会主催	その他
9．1	始業式		
17		生徒会後期役員選出	
20			北信越協議会
21			
25		生徒会総会	
27	全校遠足		
10．1	教育実習		
～	（法文・理学部）	野点て茶会（校庭）	
13			
17			
～	中間考査		
20			
25		スポーツ大会	
26			全付連高校部会
27			
11．2	開校記念式	～開校記念祭	
3			
5	（代休）		
12．7	期末考査		
～			
12			
22	終業式		
1．8	始業式		
14	教育実習開始（養護教諭）		
17			
18	～１・2年基礎学力テスト		
2．6		卒業生送別予選会	
8			
9	～付中よりの内部選考		
	養護教諭実習終了		
3．1			金大入試受験場
～	（生徒自宅学習）		
4			
5			
～	３学期末考査		
8			
10	卒業式		
19	１年現地（大和）学習		
～			
21			
22	終業式・離任式		

【生徒会主催の特色ある行事例の紹介】

Ⅰ　卒業生送別予餞会について

（予餞会の時期）卒業式に先立って，生徒会が主催する卒業生送別予餞会が昭和24年頃から盛大に続い来た。それは１日教室をはなれて教師も生徒と共に舞台に立ち互いの親交を深め合う場でもあった。はじめは卒業式の前日３月９日に行われていたが、昭和31年度から，３年生が全員登校の最後の日となり約１ヶ月繰り上がり２月９日頃にすることになり，現在に及んでいる。３年生の受験の為の配慮であった筈であるが，最近は，３年生より送る側の２年生の都合にも左右されて止むを得ずこの時期に据え置かれていると言ってよい，すなわち，３年生に対して，昨年度から，２月末日までは，特別時間割による授業が行われることになったので，受験勉強の最中の予餞会には，余り気乗りしない生徒がある。（約30％）２年生としては，共通１次試験まで残された期間は１年未満である。大方の生徒は受験勉強に本腰を入れようとしているのに生徒会執行部及び出演する生徒や裏方として協力する生徒達は多くの時間をその準備の為に割くことになる。現在の態勢では，３年生は，折角後輩が催してくれる行事であるから，１日だけ，頭を空にして，共に楽しむつきあいをして居るとも言えよう，実際１，２年生は自分達が演ずること，それ自体を楽しんでいる感じが深い，２月上旬は殊に酷寒の時期で，積雪も多く幾多の支障があるのである。

（歌舞伎上演の経過）

殆んど生徒達の手による歌舞伎が上演されるようになったのは昭和38年度の送別予餞会からであった。以下に各年度別に上演された月日と外題を列挙する。

昭和39年２月10日	番町皿屋敷	
40年２月11日	青砥稿花紅彩画	（浜松屋・稲瀬川勢揃い）
41年２月10日	助六由縁江戸桜	（助六）
42年２月10日	伽羅先代萩	（御殿飯焚の場）
43年２月９日	平家女護島	（俊寛）
44年２月７日	青砥稿花紅彩画	（弁天小僧・白浪五人男）
45年２月６日	假名手本忠臣蔵七段目	（一力茶屋）
46年２月５日	勧進帳	（安宅）
47年２月15日	青砥稿花紅彩画	（浜松屋）
48年２月13日	假名手本忠臣蔵六段目	（勘平腹切）
49年２月８日	假名手本忠臣蔵七段目	（一力茶屋の場）
50年２月７日	青砥稿花紅彩画	（浜松屋・稲瀬川勢揃い）
51年２月６日	假名手本忠臣蔵	（勘平腹切・一力茶屋）
52年２月８日	絵本太功記十段目	（尼ヶ崎の場）
53年２月７日	青砥稿花紅彩画	（浜松屋・白浪五人男）
54年２月７日	勧進帳	（安宅新関の場）
55年２月６日	假名手本忠臣蔵	（七段目一力茶屋）

左のように続いて来たが，毎年，２年生がこれを行った。出演の役者は２年生の男子であり，裏方のうち衣装・小道具の係りは２年の女性徒が担当し，大道具舞台装置等はその他の男子生徒のうちの有志の生徒が当るのが，一般的であった。

以上が例年の場合であるが，多少の例外の年もあった。例えば43年の平家女護島(俊寛)は当時の演劇部の生徒のみによって演じられた。また，51年の舞台装置作りに１年生の男子生徒が協力したという例もあるが，殆んどは２年生だけで実施されて来た。

初期から現在まで同じような形式で演じられたのでもない。外部との係わり，視聴覚機器の発達に応じて練習の仕方にも変遷があった。

（生徒による歌舞伎の変遷）

◇初期の頃，すなわち39年から46年までは，全く衣装もかつらも，すべて生徒の手で作られた。一見豪華に見える助六の衣装などは，金紙を切り抜いてはりつけた手作りの衣装であったし，かつらも，新聞紙などを材料として作られた素朴なものであったが，が，遠目には結構本物のように見えた。ただし衣装作りに約１ヶ月近く家庭科の教室は大へんな混雑振りで，家庭科の教官は，本物の教材より放課後の衣装作りに生き生きとして縫製作業をしている生徒の様子にあきれながら，時には相談を受けて，指導の手を差し述べられたようである。

◇その後，47年頃から51年までは，次第に衣装作りもその材料の値上がりと，手間を省くことを思いついた生徒は街の演劇衣装店から，「かつら」や衣装を借りに行くことになってしまった。

◇51年以降，いつの間にか，東京或は地方のテレビ局から取材に来られるようになった。為に52年の絵本太功記十段目を上演の時は，小松市のお旅祭りで子供芝居の指導をして居られる方に特別指導を受けて，ようやく女形の所作も真似られるようになり，某テレビ局に乞われ，スタジオまで出向いて一場面を演じたこともあった。引き続き，何処かの局が予餞会に現われることになってしまい演ずる生徒の方でも，熱が入って次第に力を入れて練習するようになった。その間，金沢市のかつら・衣装店主の協力があったのであるが，小人数の生徒会予算の中から支出される衣装代は，実費の何分の一だそうではあるが，かなり痛い支出ではあった。それより，生徒会の行事なのだから，外部の人の手を借りずに，下手なりに生徒たちでやらせた方がよいではないかとの反省の声が聞かれ，54年以降，できるだけ自分達でしようとの立場でスタートした。この年は，既にビデオが現われたことで，ＮＨＫの放送の録画を活用することが出来たので，好都合であった。54年の勧進帳は，衣装を借りただけで，殆んど生徒達は，日本古典文学大系一歌舞伎十八番集を読み，所作の基本を理解し，仕上げの段階でビデオを観ることで，急速に演技を体得してくれて成功した。そして遂に55年２月の假名手本忠臣蔵の場合は，周囲の要望を容れて衣装店との関係を最小限に断ち，即ち主役のかつらと衣装のみ借りに行き，大部分は生徒たちの手作りによってまかない，ビデオを演技指導の師として，生徒の手による生徒の歌舞伎を完成したのです。

（生徒の手で到達した歌舞伎について）――「自分たちの歌舞伎を自分達自身でしよう」との意気込みで配役がきまり，大勢の２年生の協力によって，過去に演じられたどの假名手本忠臣蔵より立派なものになった。その実際の仕事の分担はつぎのようにして進んだ。

◇12月下旬に題目を決定し脚本の準備をした。配役も一応は予定してあったが本当に定まったのは１月，３学期がスタートしてからであった。

◇役割分担　(1) 配役（キャスト）……２年男子生徒の有志から出演の８名が選ばれた。
(2) 舞台装置・大道具……生徒会執行委員長をリーダーとして26名の生徒が協力することになった。
(3) 小道具の作製……男生徒５人，女生徒６人，計11名が当った。
(4) かつらの作製……女生徒９人　(5) 三味線……関心のある生徒２人
(6) 効果・演出……放送部に所属の２年生２人

従来の経過を知っている教官は彼等の相談役のような形で活動が開始された。

◇稽古・道具作り……１月中旬の基礎学力テストの後，すなわち１月17日から実際の稽古や作業は始まった。かつて，同じ舞台を作り演じた先輩からの助言・親切な手紙による指導などを参考にして舞台作りが毎日，放課後に続いた。雪の日も嵐の日も黙々と彼等は鋸を引き，金槌を振った。暖房設備のない体育館の土間での作業は並大抵の苦労ではないと思われたが，

彼等は，目を輝かせ，きびきびとした手つきで作業を続けていた。如何に少い経費で巧みに写真や挿絵に見られるような感じの舞台を作るかということで，彼等は時折，意見を交換し合いながら，工夫を重ねて行った。出来上った舞台を見た人達は，思わず感嘆の声を発した。直方体の3面だけをベニヤ板で組み立た空洞も一見見事な柱に見えたし，机を積み上げて作った二重屋台の2階も本物のそれのように見えた。女性徒の工夫で，古いバレーボールを裏向けて作った白髪のかつらも，それらしく九太夫の頭に乗っていた。伴奏の音楽については，ビデオやレコードから台詞の無い部分の伴奏音楽を収録し，これを流した。が台詞に重なる部分の音楽について，是非してみたいという2人の生徒が，これもビデオから流れる三味線の音を五線譜に聴き写し，2人揃って弾いて地の伴奏音楽として流してくれて，ぐんと紛囲気が盛り上った。彼等2人はそれぞれ平常はピアノ・ギターなどを弾いた経験だけあり，三味線に触れたのは始めてであった。また，開幕・終幕の拍子木・役者の所作・見栄に合わせて打つ木も黒子装束の生徒自身の手によってなされた。舞台の上の熱演が会場に伝わり，静かに観賞する生徒の一人一人の胸に何らかの感銘を与えたと思う。（この生徒の歌舞伎は，また生徒の手によって，ビデオに収録された。）

II　火の祭典について（フアイヤ・ストーム）

【発詳の意義）

この行事は歴史的な意味を背景に持っている。旧第四高等学校の生徒が第八高校へ遠征試合に出かける選手の壮行会を火を囲み「南下軍の歌」や寮歌を歌ってストームをしたことを受けついで始められた。当時，わが校には講堂も体育館もなく，文化祭などは，金大理学部講堂（旧第四高校の講堂）で行われた。為に，この伝統的な行事は，自分達が受けついでもおかしくはないと考えた。精一杯声をからして歌い肩を組んで回り，燃え上る炎と共に青春の血潮を燃焼させようとの意図で行われた。いわゆるファイヤ・ストームである。

【沿　　革】

昭和27年11月10日　夜，校庭で第1回目のファイヤ・ストームが行われた。
29年9月22日　ファイヤ・ストーム実施（生木伐採事件起こる）
30年9月23日　ファイヤ・ストーム中止（前年度の責を負う）
31年9月24日　ファイヤ・ストーム複活
32年9月28日　ファイヤ・ストーム実施
33年9月26日　名大附高校との交歓試合が終った日の夜ファイヤ・ストームが行われる。
34年8月24日　名大附高戦の壮行ファイヤ・ストームとして行われる。
35年9月10日　ファイヤ・ストーム（対名大附高戦は8月22・23名古屋で行われる）
37年7月29日
38年7月26日
39年7月22日
41年7月24日
42年7月23日
43年7月25日
44年7月17日
この間名大附高交歓試合が交互に金沢と名古屋で行われ，その前後に壮行の意味のファイヤ・ストームが行われた。
45年7月16日
46年7月16日
47年7月17日
寮歌大会が昼間行われその後ファイヤ・ストームが行われた。
48年から52年までは，その意義，実施の仕方についての批判・生徒の意見の不統一などもあり中止となった。

53年以降に復活したものは従来からのファイヤストームではない。それは火の祭典であった。

【55年度の火の祭典について】

1980年の現代には，現代の高校生にふさわしい形式がある筈である。従来女生徒を除外し，男生徒のみで暴れ回ったストームの時代と，後姿のみでは女性徒と全く区別のつかない男生徒も多い現代では高校生のセンスにかなりずれがあるように思う。本校では女生徒の数は男生徒の半数に達しない（男281，女134）が，どんな行事にも，女性徒は男生徒と協力して常に重要な役割をする。男性のみの独走行事は何時か消滅して行くようである。

1.【前哨行事―歌の祭典55年７月12日，２限～４限】

火の祭典において，唱和する歌の歌詞やメロディーを覚えさせる意図もあって行われて来たこの歌の祭典を，学級対抗のコンクール形式で始め，課題曲として応援歌や生徒歌を選ぶのは例年通りであったが，各学級で作詞作曲した自由曲を必ず１・２生は歌わねばならないとしたことが今年は特色であった。各学年学級で変化があり，練習量に比例して，それなりの実績による評価が出たようであった。個人参加のギターの弾き語りや，グループのコーラスや伴奏も加わり，和やかな半日の歌の祭典が行われた。

2.【火の祭典の実施　55年７月19日午後７時から午後８時半】

◇形　　式　男子は全員参加，女子は自由参加，全員原則として制服（リーダーは剣道着・白鉢巻白襷）

◇役割分担　リーダー（３年９名，２年９名，１年６名，応援団を中心に組織）
進行係　12名（執行部中心に12名）火の係（２年生の硬庭部中心に６人）
物品準備係（執行部・会計）召集係（軟庭部他９名）警備係（12名）
木組み（バスケット・バレー部他有志）

◇必 要 品　トタン板30枚，かすがい60本，燈油，材木（枕木，その他の材木）
消化用ホース・ライト（木組みの大きさ一辺1.5m高さ1.8m井桁の櫓）

◇展　　開　1.開会式，格技場前に集合，点呼。
2.入場，グランドに入り各学級毎にまとまり輪になる。
3.フォークダンス（日没までの約20分間全員でフォークダンスをはじめる。）
4.リーダー登壇・黙想・点火（校舎の屋上からロープを使って火種が滑り降る。）
5.リーダーの呼びかけの言葉に始まり，やがて生徒応援歌・寮歌等の歌声が唱和して夏の夜空に燃え上る炎と共に夜空に拡がって行く。

◇渉　　外　金沢市消防本部・十一屋町消防団・十一屋派出所・整肢学園・自衛隊・平和町町会への予めの連絡と当日の電話。

◇あと始末　７月19日，早朝，実行委員全員（１・２年生）により焼け残りの処理（雨天の為，予定当日はトラックでごみ捨て場まで運ぶこと不可能となりポリ袋に分割して校庭の一隅にに片づける。後日，職員の協力により廃棄。

日頃の高校生の生活の中にあるいろいろの悩み・苦しみ，そして焦りや得体の知れない圧迫感から，しばし解放され，青春の歌を高らかに歌いあげよう。そしてこの行事を高校時代の素晴らしい思い出の一つとして心の片隅に残そう，と彼等は言う。たしかな感慨と鮮明な青春の思い出を灼きつけて火の祭典は，無事に秩序ある姿で終った。

【まとめ】

以上，本校での生徒会が中心となって行われて来た特色ある行事のうち，比較的長期にわたって実施され，伝統的な行事となったものの実例を紹介したのであるが，その他にも，各クラブの特色ある活動や行事が芽生えつつあり，やがては全校的な行事に発展するであろうと思われるものもある。日に月に進展して行く文化と共に本校も動いて行かねばならない。伝統を重荷と感ずることがある場合，その時期・時代に合うように変えて行く英断と叡知が必要になるであろう。唯，本来の学業・教科の勉強と一見無関係に見える各種の学校行事も，それの実施によって，生活のリズムに対する一つのはずみとなり，節となって，より勉学に対する集注的な効果をあげることもあるように思う。世間一般が受験競争をしているような風潮がある時だからこそ，高校生にとって，3年間のかけ替えのない青春を悔いの無い充実したものにさせたいと念ずる。